

(講座) 感染分子病態学

(研究室) 感染分子薬学

(氏名) 北里海雄

(職名) 准教授

【研究テーマ】

1. MIP-T3 遺伝子の分子機能に関する研究
2. RNA ウイルスの感染制御に関する研究
3. 微生物群集構造の解析による環境評価法の確立

【論文発表】

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. Herizo F. R., Fujimoto S., Watanabe K., **Kitazato K.**, Kobayashi N., Topographic effects of coastal seas on the composition of the culturable bacterial communities in marine sediments, *Hydrobiologia* (2007) 583:205–212(IF,0.98)
2. Adachi K, Ichinose T, Takizawa N, Watanabe K, **Kitazato K**, Kobayashi N. Inhibition of betanodavirus infection by inhibitors of endosomal acidification. *Arch Virol.* 152(12):2217-24. 2007. (IF1.85)

(A-b) 総説

1. **Kitazato K**, Wang Y, Kobayashi N, Viral infectious disease and natural products with antiviral activity, *Drug Discoveries & Therapeutics*(2007) 1, p11-21.

B 邦文

(B-b) 総説

1. 北里海雄・小林信之、ワクチンはここまできた , *医薬ジャーナル* 4 3 巻 1 号 pp81-86 (2007).

【学会発表】

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. **北里海雄**、布施隆行、大原直也、渡辺健、小林信之、MIP-T3 と微小管との結合機構の解析、日本生化学会九州支部会,2007年5月,宮崎
2. 渡辺健,塚原富士子,丸義朗,永田恭介,**北里海雄**,小林信之、ヒートショック蛋白質 Hsc70 によるインフルエンザウイルス増殖の制御、日本生化学会九州支部会,2007年5月,宮崎

3. 一ノ瀬亨, 足立圭, 滝沢直己, 渡辺健, **北里海雄**, 小林信之, ベータノダウイルス細胞内侵入機構の in vitro における解析, 日本細菌学会日本ウイルス学会合同九州支部会, 2007年8月, 長崎
4. 廣瀬和之, 渡辺健, **北里海雄**, 小林信之, 微生物群集構造解析による諫早湾環境経時的変動の評価, 日本細菌学会日本ウイルス学会合同九州支部会, 2007年8月, 長崎
5. 渡辺健, 滝沢直己, 塚原富士子, 丸義朗, **北里海雄**, 小林信之, Hsc70 がインフルエンザウイルス RNP の核外輸送に関与する, 日本細菌学会日本ウイルス学会合同九州支部会, 2007年8月, 長崎
6. 足立圭, 一ノ瀬亨, 滝沢直己, 渡辺健, **北里海雄**, 小林信之, 培養細胞におけるベータノダウイルス宿主域の検討, 日本細菌学会日本ウイルス学会合同九州支部会, 2007年8月, 長崎
7. 野田彩衣子, 渡辺健, 塚原富士子, 丸義朗, **北里海雄**, 小林信之, インフルエンザウイルスマトリックス蛋白質(M1)結合宿主因子, Hsc70 とウイルス蛋白質の挙動, 日本細菌学会日本ウイルス学会合同九州支部会, 2007年8月, 長崎
8. 一ノ瀬亨, 足立圭, 滝沢直己, 渡辺健, **北里海雄**, 小林信之, ベータノダウイルスの感染域に関する検討, 第55回 日本ウイルス学会学術集会 2007年10月, 札幌
9. 渡辺健, 滝沢直己, **北里海雄**, 小林信之, インフルエンザウイルス RNP の核外輸送にヒートショック蛋白質 Hsc70 が関与する, 第55回 日本ウイルス学会学術集会 2007年10月, 札幌
10. 渡辺健, **北里海雄**, 小林信之, ヒートショック蛋白質 Hsc70 はインフルエンザウイルスの核外輸送に関与するのか? 2007 ウイルス学キャンプ湯河原, 6月

【特許】

【研究費取得状況】

【学会役員等】

【過去の研究業績総計】

原著論文 (欧文)	20 編	(邦文)	1 編
総説 (欧文)	3 編	(邦文)	3 編
著書 (欧文)	2 編	(邦文)	3 編
紀要 (欧文)	1 編		
特許	2 件		